



## 3.1 令和3年度 卒業証書授与式

冬の厳しい寒さがようやく緩み、梅がほころび始めた3月1日(火)、令和3年度卒業証書授与式が美里分校体育館で執り行われました。今年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来賓への案内を控え、卒業生、卒業生保護者、校長、事務長、美里分校職員、在校生徒のみが参加する卒業式となりました。

卒業証書が授与された後、川久保校長は式辞の中で、新型コロナウイルス感染症との戦いが続く中、感染症に関する情報が溢れる状況に触れ、これからは情報を見極め、自分自身で判断することが求められるようになること、そのために自らの意志で学び続けることが大切だと述べられました。

今年の卒業生は、1年生の終わりから卒業までコロナ禍の影響をまともに受けた学年で、臨時休校や分散登校、修学旅行をはじめ様々な学校行事の中止等を経験してきました。

また、この学年は入学生が4名と少ない上、はじめは欠席が多く、クラスとしてのまとまりに欠けていました。しかし、体育祭での活躍や文化祭での模擬店、動画制作等で見せたチームワークに、それぞれが成長する中

で、次第にクラスとしての絆や一体感を深めていく様子を感じられました。

生徒会長を務めた中森和音さんは答辞の中で、欠席が少なくなったこと、家庭学習や人前での発表ができるようになったことなど自らの成長を振り返り、分校での学びを通して自信を持ってできるようになったと述べました。そして、支えてくれた両親に感謝の気持ちを伝え、これまで以上に多くのことを自分でい、自立した人間になれるよう頑張っていくと誓いました。

卒業式の後のホームルームでは、担任の田和先生が卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、この日のために用意した動画をみんなで鑑賞しながら3年間を振り返っていました。

途中、職員室を訪れた卒業生は、教員一人一人から卒業アルバムに寄せ書きを書いてもらうなど、名残惜しそうに時間を過ごしていました。彼らにとって、美里分校での3年間が大切な時間となっていたなら、我々教師にとってこれほど嬉しいことはありません。

卒業生のみなさんがこれからも成長を続け、それぞれの道で活躍されることを心から祈っています。御卒業おめでとうございます。

海南高等学校美里分校 マンスリータイムズ

## 分校の窓から

03  
2022



# 高校再編について

## 再編整備に係る原則と指針

日本社会において急速な少子化や地方の人口減少が大きな課題となる中、本県の中学校卒業生徒数は、平成元年の約 18,000 人をピークに減少を続け、令和 3 年には 7,912 人となり、14 年後の令和 17 年には約 5,800 人程度まで減少することが予測されています。

こうした中、県教育委員会は令和元年 10 月に、今後の県立高等学校の在り方を「きのくに教育審議会」に諮問し、翌年 8 月に答申を受け取りました。

答申では、今後 15 年間の大幅な生徒減少を見据えた再編整備が必要とされ、全日制の県立高等学校 29 校が 20 校程度になる可能性を示すなど、その内容は県内で大きな議論を巻き起こしました。その後県教育委員会は、県内各地で説明会・懇談会を重ねながら議論を深め、このほど『県立高等学校教育の充実と再編整備に係る原則と指針』（以下、『原則と指針』）を発表しました（令和 4 年 3 月）。

『原則と指針』では、今ある県立高等学校については、教育活動を充実させ、今後、可能な限り存続させることを基本としながらも、適正な学級数を 1 学年あたり 4~8 学級として、それを維持することが困難になった場合、検討期間や準備期間を設け、地域の声を聞きながら再編整備を行っていくプロセスを示しました。

また分校の再編整備については、併設時制課程の規定を準用し、入学生徒数が募集定員の 20%未満の状態が 2 年連続している場合は、生徒の出願状況や分校所在地周辺の中学生の人数、中学生の分校への進学状況を考慮しながら、募集停止を検討することが示されました。

## 美里分校の使命

地域の子供たちに高等学校教育の機会を与えたいという地元の切実な声を受けて、美里分校は昭和 28 年に大成高校の分校として設立されました。当初より 1 学級募集でしたが、一時は全校生徒数が 100 名を超え、多くの地元の子供たちが美里分校で学びました。

しかし時代は流れ、少子高齢化の波に晒されるようになると、美里分校は生徒数減少の課題に直面し、10 年前はまだ 80 名を超えていた生徒数も、現在は 20 名を下回るまでになりました。

また、地元の子供の数も減少して地元小学校・中学校は休校となり、分校に通う生徒もほとんどが地域外の出身者が占めるようになりました。こうした現状を考えれば、美里分校の設立当初の使命はすでに終えたと言ってもいいのかもしれません。

美里分校の生徒は、少人数での学びや自然に囲まれた落ち着いた環境に興味を抱き、こ

の学校への入学を選びました。大人数での学びに不安を感じていたり、不登校を経験してたり、学習歴は様々ですが、入学後は望んだ環境の中で、伸び伸びと高校生活を過ごしています。

一人一人と丁寧に向き合うことができることや、人数が少なく一人一人の責任や役割が大きくなる分、それぞれの体験が濃密になるなど、美里分校には少人数だからこそできる学びがあると考えています。

## 美里分校と高校再編

人口減少が進行する中、美里分校も高校再編の議論と無関係ではられません。これ以上の生徒数減少は、学校経営上、運営が困難となる上、『原則と指針』で示されているように、一定の生徒数を確保できなければ募集停止になる可能性もあります。

しかし、高校再編で大切なことは、それぞれの学校が教育活動を充実させて、和歌山の子供たちに充実した高等学校教育を提供することです。今後は美里分校に何ができるのか、その役割を明確に示すことが求められるようになるでしょう。

今後は、少人数だからこそできる学びをさらに追求していくとともに、地域と課題を共有しながら、この場所でしかできない体験や学びの意味を創出していくことで、美里分校の魅力を高めていきたいと考えています。

## 令和 3 年度末 人事異動

令和 3 年度末の人事異動で、養護教諭の松下久記子（まつしたくきこ）先生が御退職（再任用期満了）、数学科講師の加藤丈博（かとうたけひろ）先生が田辺工業高校へ転出となりました。

松下先生は 5 年間にわたり保健室の先生として、また教育相談係として生徒に関わっていただきました。様々な悩みや相談にも、常に生徒に寄り添う優しい先生でした。

加藤先生は、美里分校での勤務は 1 年間と短かったのですが、この間、図書館の開館や軽音同好会の立ち上げに携わるなど、多くの仕事を果たしてくれました。穏やかな人柄や年齢が近いこともあって、生徒からとても慕われていました。昨年、教員採用試験に合格され、この度、教諭として田辺工業高校での採用となりました。

お二人が美里分校を離られることは寂しい限りですが、先生方がそれぞれの新天地でご活躍されることを祈っています。これまで美里分校のために尽力していただき、本当にありがとうございました。

